博士前期課程（修士） / 助産看護学領域 / 助産看護学分野
科目コード：280004

助産実践実習Ⅰ（正常・継続）

担当教員	亀田 幸枝、米田 昌代、曽山 小織、桶作 梢				
実務経験					
開講年次	1年次通年・2年次前期	単位数	8	授業形態	実習
必修・選択	選択	時間数	360		
Keywords	ローリスク妊産婦･新生児、妊婦健康診査、助産師外来、分娩介助、産後の母子健康診査、母乳育児支援、健康相談、継続事例				
学習目的・目標	学習目的: 1. ローリスクあるいは正常な経過にある母子とその家族に対して、もてる知識や技能を最大限活用し、主体的に助産実践できる。 2. 様々な助産の場や他者との相互作用を通じて、助産師としてのアイデンティティを育むことができる。 学習目標: 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象に、生理的経過と健康状態を促進する助産過程の展開（観察・アセスメント・助産診断・計画立案・実施・評価）を行い、助産実践について説明できる。 2. 妊娠期から産褥・新生児期まで、助産の対象を継続的・総合的に捉えて助産過程を展開し、助産実践と助産師としての役割・責務について説明できる。 3. 職業人となるに向けて助産師職の果たすべき役割行動をとり、母子とその家族を支援するチームメンバーとして自らの助産実践の課題を示すことができる。 4. 自己の助産師像をイメージし助産観を表現できる。				

授業計画・内容

回	内容	授業方法	担当
	<u>妊娠期実習</u> 助産外来等でローリスクまたは正常経過の妊婦の妊婦健康診査を行う。 <u>分娩期実習</u> 正常経過の産婦の分娩期の助産診断を行い、分娩進行に伴う産婦と家族へのケアを実施する。継続事例産婦を含む産婦の分娩介 助をする（10例以上）。 出生直後の母子接触、早期授乳への支援、分娩想起への支援を行う。 <u>産褥・新生児期実習</u> 褥婦の産後の回復や新生児の胎外生活適応を促進するケアを行う。 <u>継続事例実習</u> 妊娠期から分娩期、産褥・新生児期まで継続して母子を受け持ち、母子の健康診査と保健相談、家族を含めた健康教育を行う。 * 詳細は実習要項参照	実習	亀田 米田 曽山 桶作

教科書	各種講義で使用したテキスト
参考図書等	随時紹介する
評価指標	実習評価表に準ず
関連科目	助産診断・技術特論演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術特論演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術特論演習Ⅲ（産褥期・新生児期・乳幼児期）、助産診断・技術特論演習Ⅳ（ハイリスク）
教員から学生へのメッセージ	多様な対象に助産ケアを提供できるように、分娩介助だけではなく、妊婦、褥婦、新生児の健康診査も取り入れて実践を学びます。妊娠、出産は生理的な現象で刻々と変化しています。健康な状態をいかに維持・促進し、異常にならないような助産ケアを考え、実践していきましょう。